



一般社団法人
日本看護研究学会

ニュースレター

第4号

2020年12月1日 発行

編集発行

日本看護研究学会

(事務局)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内

一般社団法人日本看護研究学会 事務局

TEL: 03-3944-8236 (直通)

FAX: 03-5981-9852

主な記事

理事長より / 学術集会情報 / 委員会紹介 / 地方会紹介
連載 / 編集後記

理事長より

一般社団法人 日本看護研究学会
理事長 深井 喜代子



書面表決と欠席委任という異例の形で開催された社員総会から4ヵ月が経ちました。新たな布陣で臨んだ今年度からの日本看護研究学会の、コロナ禍でのスタートでした。会員の皆様には、その後いかがお過ごしでしょうか。

振り返ると、2020年は正月こそいつも通りに過ごしたものの、それ以降、人々が集うあらゆる催しをことごとく断念した年になりました。3月のWHOによるCOVID-19のパンデミック宣言から8ヵ月経った現在もなお、流行の勢いは衰えるどころか、これから乾燥した冬を迎える北半球では益々猛威を振るうことが予測されています。

ここで思い起こすのは理学者ラザラスのストレス理論(Lazarus RS, 1936)です。その学説には「葛藤状態に置かれたとき、人間は環境の変化と自身の対処能力を認知し、能動的(意識的)対処行動copingをとる」とあります。つまり、「人間は変化する環境と常に相互作用しながら適応していくものだ」というのです。最近読んだ五木寛之氏の対談(東洋経済ONLINE)にも、「人間は慣れる生き物」とありました。ただ、人間社会全体がコロナ禍に適応するのに、ペストやスペイン風邪のときのように何十年もかかる覚悟が要るとしたら、実に厳しい試練になります。

それでも私たちはいつまでも営みを休止するわけにはいきません。現代科学の知恵を武器に、日々の生活で小さな習慣を変えながら、コロナ禍と向き合い、闘っていかねばなりません。後期が始まり、学生たちが少しずつ登校するようになって気づいたことがあります。生物学実験の日、私語1つ無く、皆一心不乱に顕微鏡を覗き込む姿です。医学科も同様だと聞きました。この変化は何を教えているのか。保育園児が笑顔をつくることができない、というのも知りました。また、入念な感染予防対策のもと、1人の感染者も出すことなく成功を収めた集客イベントがあったというニュースも見ました。

そうしたなか、私ども日本看護研究学会は「完全遠隔開催」という形で第46回学術集会を敢行しました(9月28日~11月8日)。大きな不安を抱えながらの決断でしたが、ご承知のように大会は大盛況のうちに幕を閉じました。城丸学術集会長はじめ関係各位に、会員を代表して心からの感謝と敬意を表しますとともに、参加者の皆様にも深く御礼申し上げます。この成功で得たエネルギーを希望に変えて、そろそろ本腰でafterコロナ、withコロナの研究活動に取り掛かるうではありませんか。今こそ看護学研究が求められているときだと思います。

2020年11月

学術集会情報

第46回学術集会報告

一般社団法人 日本看護研究学会
第46回学術集会会長 城 丸 瑞 恵
(札幌医科大学)



一般社団法人日本看護研究学会第46回学術集会は、2020年8月27日(木)～8月28日(金)に札幌コンベンションセンターで開催予定でした。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を考え9月28日(月)～11月8日(日)Web開催に変更いたしました。会場開催からWeb開催となり、会員の皆様にはご心配やご迷惑をおかけしたと思います。ここでお詫び申し上げます。最終的に1,100名以上の方々のご参加をいただくことができ、事務局一同感謝の気持ちでいっぱいです。ご協力に感謝申し上げます。

本学術集会のテーマは、「当時者とともに創る看護の知」であり、このテーマを軸にプログラムを企画しました。おかげさまで、参加者の方々からは、テーマにそった講演、シンポジウムであったと評価をいただくことができました。オンデマンド方式のため、会場開催日であった8月27日(木)～28日(金)に、感染対策に留意しながら、講

演・研究法セミナー・市民公開講座などの収録を行いました。この2日間は、気温は高く暑かったのですが、空がとてもきれいな快晴でした。皆様は、札幌の青く澄み渡る空をみていただきたかったです。演者の方々のお話は、それぞれ興味深く今後の看護について考えるよい機会になりました。当事者・ご家族の方々にもお話をさせていただきました。体験された内容に心が揺さぶられ、自分自身を振り返る貴重な時間となりました。会場は関係者のみでしたが、オンデマンド方式で多くの方々と時間や場をこえて様々なことを共有できたのではと考えています。

今回、第46回学術集会を開催する貴重な機会をいただきました一般社団法人日本看護研究学会 深井喜代子理事長をはじめ、理事・会員の皆様、ご協賛くださいました企業の皆様、企画・実行委員として協力して下さった皆様、心から感謝申し上げます。



第47回学術集会の開催についてのご案内

一般社団法人 日本看護研究学会
第47回学術集会会長 塩 飽 仁
(東北大学)



メインテーマ：脳とこころのケアとサイエンス

開催方法：2021年8月21日(土)、22日(日) オンライン／ハイブリッド開催

第47回学術集会は、COVID-19の影響を考慮して、講演演題は事前に収録した動画を参加される皆様のご都合に合わせて視聴していただくオンデマンド配信とし、一般演題の発表やテーマセッション、学会企画等で意見交換を行っていただく企画については、双方向ライブ配信での開催を準備しております。また、状況に応じてですが、仙台会場に集合していただき実施するセッションをライブ配信し、後日オンデマンドでもご視聴いただくハイブリッド形式を取り入れる計画もあります。

本学会としては初の新しい学術集会開催形式にチャレンジし、New Normalの基盤となるよう尽力したいと考えております。

また、第47回学術集会のホームページは、学会のサーバーを用いて学術集会メンバーで立ち上げる予定です。

詳細な開催情報は、学術集会ホームページで順次お知らせしてまいります。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

委員会紹介**総務担当**

総務を担当させていただきます。特に理事長の補佐的業務として、会員の入退会や役員人事に関すること、会員の皆様への情報提供や広報的な仕事が主なものです。本学会に入会したことで、会員の皆様方が各分野におきまして看護研究のさまざまな活動が一層促進することを願って活動して参ります。学会活動に関しましての疑問やご相談などがありましたら、どうぞ遠慮なくお尋ねください。誠心誠意対応致します。

鈴木みずえ (浜松医科大学)
矢野 理香 (北海道大学)

渉外担当

渉外担当では、看護系47学会が所属する日本看護系学会協議会 (JANA)、日本学術会議 (第二部 生命科学) 健康・生活科学委員会／看護学分科会、看護系学会等社会保険連合 (看保連) 等看護学関連の重要な他機関や団体との円滑な連携・協力体制をはかれるように情報交換などの対応を担っています。具体的活動の一例としては、2020年5月30日 JANAより緊急提言「医療ならびに地域ケアシステムの崩壊を防ぎ、人々の命と尊厳を守るために」を内閣総理大臣に提出しましたが、本会も賛同学会と連名しています。

浅野みどり (名古屋大学)
川口 孝泰 (東京情報大学)

また、日本学術会議に関しては浅野が連携会員を拝命しておりますので、看護学分科会の活動はもとより、その他の関連分科会についてもタイムリーかつ有効な連携に向けて一層の努力をして参ります。重要な関連情報は事務局を通じて、理事・監事・評議員・会員へ送信しています。本会が他組織と連携して看護学として学術の発展に貢献できるように努めて参ります。

会計担当

会計担当として本学会の資産および会計の管理を担当しています。予算案の提案や決算確認および報告、会費請求などが主な内容となります。会費納入率は毎年高く、会員のみなさまには感謝しております。これからも適切な資産および会計管理に尽力いたします。

国府 浩子 (熊本大学)
佐藤 洋子 (北海道大学)
布施 淳子 (山形大学)

編集委員会

編集委員会は、1)『日本看護研究学会雑誌』の企画、編集、発行の基本方針に関すること、2)論文、資料などの投稿受付、査読審査に関すること、3)論文掲載の決定に関すること、4)投稿規程などの制定、改廃に関すること、5)その他、刊行に関することを担当しています。

『日本看護研究学会雑誌』の発行は、学会の根幹をなす機能であり、ハイインパクトな研究結果を迅速に公表できるように心がけています。査読へのご協力と論文投稿の両面から、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

今期から、『日本看護研究学会雑誌』のリノベーションに取りかかります。新型コロナウイルス感染症に関連する看護の論文を募集中です。2021年発行の44巻1号から、英文を最後のページにまとめるなど、モダンな紙面に変更いたします。さらに、看護研究のグローバル化にともない、英語論文を掲載しやすい環境の整備を進めていますので、ご期待ください。

委員長

法橋 尚宏 (神戸大学)

委員

荒木田美香子 (川崎市立看護短期大学)

今井多樹子 (安田女子大学)

岡 美智代 (群馬大学)

小澤三枝子 (国立看護大学校)

亀井 智子 (聖路加国際大学)

工藤 美子 (兵庫県立大学)

清水 安子 (大阪大学)

辻村真由子 (千葉大学)

本田 育美 (名古屋大学)

前田 樹海 (東京有明医療大学)

八尋 道子 (佐久大学)

吉永 尚紀 (宮崎大学)

涌水 理恵 (筑波大学)

委員会紹介

奨学会委員会

奨学会の目的は、優秀な看護学研究者の育成の為に、その研究費用の一部を授与（奨学金）し、研究成果により看護学の発展に寄与することです。委員会は、奨学研究の募集、選考、成果発表に関与する活動をおこなっています。奨学金は1題50万円以内で、授与者には、研究成果を誌上発表することが求められます。募集は毎年9月にご案内しております。若手研究者をはじめとした多数の応募を期待しております。

委員長

阿部 幸恵（東京医科大学）

委員

工藤せい子（弘前大学）

小松万喜子（愛知県立大学）

佐藤 正美（東京慈恵会医科大学）

前田ひとみ（熊本大学）

学会賞・奨励賞委員会

学会賞・奨励賞委員会では、過去3年間の原著論文から、学会賞は看護学の発展に貢献できる論文の筆頭者1名、奨励賞は独自性があり発展が期待できる5論文の選考をしています。選考に至るまで、各委員が約35編前後の原著論文の評価を行い、1月中旬に委員会を開催し慎重に審議・選考、その後委員長が推薦書・申請書類を作成、メール会議、2月末までに理事長に推薦、年度末の理事会で審議、5月下旬の社員総会で承認を受ける、という過程を担っています。

委員長

工藤せい子（弘前大学）

委員

阿部 幸恵（東京医科大学）

小松万喜子（愛知県立大学）

佐藤 正美（東京慈恵会医科大学）

前田ひとみ（熊本大学）

将来構想委員会

将来構想委員会は、各種委員会以外から、学会の将来にかかわる重要な事案が生じた場合に、必要に応じて委員長（理事長）が委員を招集し、直近の理事会に先行して開催します。事案について協議し、内容を整理して審議事項として理事会に提示します。事案の内容により、委員以外の理事を招聘することがあります。

なお、本学会には別途、将来構想委員に各種委員会の長を加えた常任理事会を組織しています。常任理事会は、理事長が必要と認めた場合に、理事会の直前に開催します。

委員長

深井喜代子（理事長）

委員

鈴木みずえ（総務担当副理事長）

浅野みどり（渉外担当副理事長）

矢野 理香（総務担当理事）

川口 孝泰（渉外担当理事）

国府 浩子（会計担当理事）

研究倫理委員会

人・動物あるいは資料等を対象とする研究の倫理的問題を検討し、会員が看護研究に伴う倫理について理解を深めると同時に、研究が倫理的に遂行できるように支援することを目的としています。

研究倫理審査を希望する会員は、日本看護研究学会ホームページの下記URL

<https://www.jsnr.or.jp/outline/ethics/post-2.html>

にアクセスし、申請書・研究倫理審査申請書・申請者用チェックリスト・利益相反自己申告書等をご記入の上、本学会事務局にお送り下さい。

研究倫理審査では、以下の点に留意し審査を行っています。

- 1) 研究対象者に対する人権の保護、権利擁護、および安全の確保
- 2) 研究対象者に対するインフォームドコンセント
- 3) 研究によって生じるリスクと科学的な成果への理解と判断
- 4) 利益相反に関する事項

他の活動としては、編集委員会と連携し、倫理的問題について協議したり、研究倫理に関する交流会などの支援や社会の状況によって必要な事業を行っています。現在は日本看護系学会協議会のCOI検討会で看護系学会の利益相反のガイドライン等のあり方について検討しています。

委員長

高見沢恵美子（関西国際大学）

委員

祖父江育子（広島大学）

森 千鶴（筑波大学）

脇坂 浩（浜松医科大学）

委員会紹介

国際活動推進委員会

会員の皆様ならびに我が国の看護研究者にとって、グローバルな視野に立った研究活動ができるように、また国際交流を発展させるための取り組みを行っていきます。今期は特に日本の看護研究を世界に発信していけるように、英語論文執筆を推奨するための啓発活動を行う予定です。具体的には、英文誌への論文掲載経験のある若手の研究者に、経験談をニュースレターに書いてもらうことや、来年度の学術集会で海外の top journal の editor の講演などを計画しております。早速、今回のニュースレターに英文投稿の経験談を、中本委員に書いてもらいました。皆さんにとって魅力的な学会となるよう活動していく所存です。企画案などがありましたら、是非、お知らせください。

委員長

岡 美智代（群馬大学）

委員

中平 みわ（京都光華女子大学）

中本 五鈴

（京都大学大学院医学研究科博士後期課程）

若村 智子（京都大学）

大規模災害支援事業委員会

大規模災害支援事業は、東日本大震災を契機として、平成 23 年度から大規模な災害により被災された看護学生が修学継続をあきらめることのないよう支援しようという会員からの声により誕生した事業で、本委員会はこれを運営しています。平成 27 年度からは支援の対象を本学会会員の看護学研究者にも拡大し、令和元年度までに 246 件、総額約 2,137 万円を支援させていただきました。本支援事業は被災した個人を直接、経済的に支援するもので他の学会にない独自の支援事業です。

支援の原資は本学会一般会計からの繰入金と会員の皆様からのご寄附等であり、平成 23 年度から令和元年度までにお寄せいただきましたご寄附総額は 1,126 万円になります。

残念なことに東日本大震災以降も、2016 年熊本地震、2018 年 7 月豪雨、北海道胆振東部地震、2019 年九州北部大雨、台風 15 号・19 号・21 号、そして今年度 7 月の豪雨等、次々と大規模な災害が発生しています。本委員会は災害が発生しないことを願いつつ、発生したときには、少しでも必要な人に支援が届けられるよう情報の周知と迅速な対処に努めて参ります。

委員長

中西 純子（愛媛県立医療技術大学）

委員

竹田 恵子（川崎医療福祉大学）

深田 美香（鳥取大学）

広報委員会

広報委員会は今期から新たに設置された委員会です。学会の事業及び看護に関わる教育・研究活動についての情報を周知することを目的として活動しています。具体的な活動としては次の 5 点です。

- 1) 本会ホームページの作成、管理及び運用
- 2) ニュースレターの発行
- 3) 会員向けメール配信による情報発信
- 4) 必要と認められる情報の収集、開示、及び管理
- 5) 広報体制の検討

会員の皆様にとって最も身近なものとしては、ニュースレターだと思います。今回から新企画としてニュースレターに英文投稿の経験談について連載を始めました。皆様に役立てていただける、また楽しんでいただけるような広報誌にしていきたいと思います。「このような内容を知りたい」というものがありましたらお知らせ下さい。また、原稿の依頼をすることがありますが、是非ご協力いただければと思います。会員の皆様に有益な情報をお届けできるよう鋭意取り組んで参ります。

委員長

塩飽 仁（東北大学）

委員

井上由紀子（仙台赤門短期大学）

委員会紹介

看保連ワーキング

本ワーキングは、(社)看護系学会等社会保険連合に加盟している本学会が、診療報酬改定等につなげるエビデンスを提示するために、将来構想委員会の中で、前御担当者の山口桂子理事より引き続いて、2つのWGを中心に活動しています。具体的には、①障がい児と家族の生活世界を広げる支援事業を中心とした「障害児プロジェクト(代表:泊祐子委員)」②超高齢社会における高齢者への効果的な看護技術に関する「急性期病院における高齢者身体拘束軽減プロジェクト(代表:叶谷由佳委員)」です。これからの診療報酬・介護報酬改定に向けたデータ収集や要望書の作成・提出のための取組みとして、プロジェクトメンバーの活動による文献レビュー等の成果も発信しています。現在は、2022(R4)年度診療報酬改定に向けての意向調査への対応、看保連の情報交換会、診療報酬のあり方検討会等に出席するなどの役割を担っています。

委員長

浅野みどり(名古屋大学)

委員

叶谷 由佳(横浜市立大学)

泊 祐子(関西福祉大学)

実践研究活動推進ワーキング

このワーキングは2020年度より発足しました。本格的な活動はこれからですが、本学会の特徴である、看護実践に資する研究活動を学会として支援・推進するために設置しました。研究テーマに溢れる看護実践の最前線にありながら研究環境(時間、人材、資金など)に恵まれない看護実践者と、研究環境は整うも実践感覚が不足する看護学研究者が、互いの短所を補い、長所(強み)を活かして、共通の研究目的を持ち、比較的大規模で長期的な研究課題を追求するグループを応援するワーキング・グループです。ワーキングからの研究課題(案)を会員の皆様に提示して関心のある方を募る一方、皆様からの研究のアイデアや希望する研究課題を募っていく予定です。

委員長

深井喜代子(東京慈恵会医科大学)

委員

浅野みどり(名古屋大学)

佐藤 正美(東京慈恵会医科大学)

前田ひとみ(熊本大学)

若村 智子(京都大学)

地方会紹介



北海道地方会

会長 三国 久美(北海道医療大学)

北海道地方会では、毎年学術集会を開催しておりますが、今年度は札幌医科大学の城丸瑞恵会長のもと、北海道において日本看護研究学会第46回学術集会が開催されたため、地方会としての学術集会を開催しませんでした。2021年度は、旭川医科大学医学部看護学科の服部ユカリ先生に

学術集会会長をお引き受けいただき、第29回北海道地方会学術集会を開催予定です。コロナ禍での感染拡大状況を踏まえ、開催方法について現在検討中であり、詳細につきましては、地方会ニュースでお知らせいたします。



東海地方会

会長 白尾久美子(日本福祉大学)

東海地方会では、2021年3月13日(土)に、学術集会会長佐藤直美先生(浜松医科大学)により、第25回社)日本看護研究学会東海地方会学術集会を開催いたします。学術集会のメインテーマは「実践をとらえなおす」です。図らずもこのコロナ禍での学術集会開催ということになりましたが、誰もがこれまでの「当たり前」を変えていく必要に迫られているこのようなときこそ、「実践をとらえなおす」ための機会を皆さまと共有できればと思いを新たにしてお

ります。COVID-19の感染拡大予防を鑑み、学術集会の講演はWEB(ライブ配信)、演題発表は紙上発表といたします。演題登録および学術集会への参加は、下記のURLよりお申込みください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術集会HP;

<https://www.jsnr.or.jp/district/tokai/meeting/gakujutu25info.html>



地方会紹介



近畿・北陸地方会

世話人代表 井上 智子 (大阪大学)

近畿・北陸地方会は9府県(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・福井・富山・石川)の本会会員で組織され、2020年度は1,300名での始動となりました。活動の柱は早春の学術集会と、晩秋2回のセミナー開催で、会員有志による「世話人会」が事業を担い、本会評議員が世話人代表となります。

今年の第34回学術集会(学術集会長:奈良学園大学大学院看護学研究科守本とも子研究科長「看護の原点回帰-情緒的価値観へのパラダイムシフト」)は、前年度に引き続き抄録作成による紙上発表形式となります。地方会の活動目的でもある会員相互の親睦が十分に図れない反面、最北の石川県能登電鉄穴水駅から最南の和歌山県JR串本駅ま

では598km、特急を乗り継いでも8時間34分を要することを考えますと、広く参加者を迎えることができないのではないかと期待しています。第31回となるセミナーも「vimeo」をプラットフォームとしたWeb開催(講師:聖泉大学小山敦代学長「健康寿命UPを目指す看護&研究」11月16日(月)~11月22日(日))にて行いました。(詳細は地方会HP <https://www.jsnr.or.jp/district/kinki-hokuriku/> をご参照ください。)

引き続きWeb活用によるリモート活動の利点と限界を見極めながら、会員の皆様にとって意味のある地方会を目指していきます。ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



中国・四国地方会

会長 岩佐 幸恵 (徳島大学)

【地方会活動の特徴、トピックスなど】

本地方会は、「自由で自立した精神」をモットーに、毎年、学術集会の開催、ニュース・レターの発行を重ねております。2020年3月開催の第33回学術集会は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれましたが、会員が力を合わせ無事に開催(Web)することができました。そして、コロナ禍のなかですが、滞りなくニュース・レター(No.28)を発行し、第34回学術集会の準備が進んでおります。学術集会への多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【2020年度・地方会学術集会案内】

開催期日:2021年3月7日(日)~3月21日(日) Web開催

実行委員長:松森 直美(県立広島大学保健福祉学部看護学科)

テーマ:地域創成時代を拓く看護研究

特別講演:金井 一薫『「看護覚え書」を現代の視点で読む』

教育講演:法橋 尚宏「よい理論ほど実践的なものはない 家族同心球環境理論と実践の融合」

シンポジウム:餅田 敬司、今村 美幸、濱本 千春「地域で拓く在宅看護の可能性」

<http://34kangokenkyu-chushikoku.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=32903>

九州・沖縄地方会

会長 楠葉 葉子 (国際医療福祉大学)

九州・沖縄地方会の会員数は820名(令和2年8月末)です。会員の努力と地域の方々の協力のもと「学術集会」を毎年開催しています。本年度は、コロナ禍のため開催を躊躇しましたが、10/31~11/15にWeb上で、「ダイバーシティ時代の看護研究」をメインテーマとして開催いたしました(学術集会長:福岡大学医学部看護学科 中嶋恵美子教授)。令和3年度は、久留米大学医学部看護学科 三橋睦子教授のもと、「危機の時代に考えたい根拠ある次代の

イノベーション」をテーマ(仮)に、令和4年1月29日(土)開催を予定しています。開催時期が秋から冬に変更になっていますのでご注意ください。

また、本年度は、8月に地方会役員改選選挙を実施いたしました(投票率19.1%)。得票数順に、福岡県4名、熊本県3名、他各県2名を役員候補者として依頼し承諾を得ました。2021年4月より新役員体制になります(任期 3年間)。

「英文論文投稿・掲載の経験談」

京都大学大学院医学研究科博士後期課程

中 本 五 鈴

初めての英文投稿に関する経験談をご紹介します。

わたしは修士課程で、糖尿病を発症する動物において、運動が骨格筋の糖代謝能に及ぼす影響に関する研究を行いました。実験を終えた修士2年の9月から、修士論文（和文）と平行して投稿用の英文論文を作成しました。私の研究科では、修士学位には英文論文は必須条件ではありませんでしたが、博士課程の先輩方が英文論文を投稿しているのを間近でみていたので、当初から英文論文にまとめたいと思っていました。

3月に糖尿病に関するジャーナルに投稿しましたが、リジェクトを受けました。指導教員と相談しながら構成を考え直し、運動に関するジャーナルに再投稿して、リバイスを受け、アクセプトされたのは9月でした。英文論文の作成からアクセプトされるまで1年程かかりました。

リジェクトのメールで査読者から厳しい意見を受け、実験計画の甘かった点を痛感し、とても落ち込んだので、アクセプトされた時は嬉しかったです。自分の力量のなさを感じる事が多い日々ですが、研究者としての第一歩を踏み出せたのではないかと思います。

今後、英文論文を執筆する時には、いつまでにアクセプトされたいかを見積もって準備するようにしようと思いました。もう少し早く準備しておくべきだったと後悔したからです。研究費の応募や申請などには、研究内容のおもしろさに加えて、英文論文投稿など

の業績も大事であるため、自分が行った研究に関しては、努力を惜しまずに論文化しないといけないと指導教員から教わりました。

研究をやり終え、次の研究案を考え、実施しながら、終えた研究成果を英文論文にすることは、私にとってはまだまだ困難な平行作業です。しかし、少しずつでも成長していけるように、日々研究分野の英論文を読むという習慣を続けていきたいと思っています。本稿を読んで、“私も書いてみようかな”と英論文執筆を意識していただければ嬉しいです。

— 編集後記 —

ニュースレター2020年第4号を皆様にお届けいたします。新企画として英文投稿の経験談について連載を始めました。興味深い内容となっておりますので次号も楽しみにお待ちください。早いもので2020年もあと1か月を切りました。Covid19の中で様々な変化が求められる1年でした。2021年には明るい兆しを期待して会員の皆様が健康で穏やかに過ごせるようになることを願っております。

(井上)